

【国際委員会】 研鑽用資料『青春対話』（P125～141）

国際人って何？

せ かい かがや ぶ き ご が く てつがく
世界で輝け！ その武器は「語学」と「哲学」

池田 さあ、きょうも語ろう！ きょうのテーマは「国際人」だね。

—— はい。ゲストとして、SGI公認通訳（英語）の方に来てもらっています。

SGI公認通訳 よろしくお願ひします。私も高等部出身です。

池田 こちらこそ、よろしく。

「国際人」というと、みんな、どんなイメージだろうか。

—— はい。高等部員に聞いてみました。

あつとうてき あやつ
圧倒的に多かったのが、「語学が自由に操れる人」です。

ほかには「どんな国の人とも友だちになれる人」「自分の国の感覚が世界の常識と思わない人」「日本という枠を

こ し や
超えて、世界的視野に立てる人」というイメージの人もありました。

また、こんな声もありました。「仕事が世界とじかにつながっている人」「自己主張をしっかりともち、平等に、物事
を見られる人」などです。

りっぱ じんかく ようけん
人間として立派な人格が「国際人」の要件

そんけい
世界が尊敬する「創価の人生」

池田 みんな、しっかりした考えをもっているね。全部、それぞれ正しいと思う。そのうえで、私が言っておきたい

のは、じつは、^{こうせんる ふ}広宣流布のために働いている、^{みな}皆さんのお父さん、お母さんこそ、「国際人」ということです。

その理由は、毎日、全人類の幸福を真剣に祈っている。そして、利己主義を捨てて、人の幸福のためにボランティアで行動している。毎日、忙しいなかを、世界的な大哲学である仏法を学んでいる。その人こそ、「世界から尊敬される人」です。「世界に通用する生き方」なんです。たとえ一回も外国に行ったことがなくても。

その証拠に、SGIは世界中から、絶讃されています。

—— 池田先生への膨大な数の「賞」や「表彰」「名誉博士号」などが、その証明ですね。

^{みな}池田 私は皆さんのお父さん、お母さんの「代表」として受けているんです。だから、皆さんのお父さん、お母さんが受賞したのと同じ意義になるんです。世界が諸君のご両親を讃えているんです。

SGI公認通訳 私も、いろいろな国に行って、SGIへの期待に、びっくりすることがあります。

一九九六年も、^{こうりゆうだん}青年部の交流団の一員として、インドへ行きました。西ベンガル州におられる、ハリム国連協会世界連盟の会長を訪ねた時、連盟の方が突然、「池田SGI会長の国連への提言を、いつも興味深く読んでいます。きょうは、会長の提言について、一緒にディスカッションしましょう」と言われました。「SGI会長の哲学を教えてください」と言うのです。スケジュールにはなかったことなので、^{おどろ}驚きました。（＝九七年九月、同協会からSGI会長に「^{し えん}国連支援と世界平和推進への計り知れない努力」を讃えて「^{おこな}特別表彰」が行われた）

—— 世界の未来をどうするのか。そういう責任感をもっている人には、同じ意識で真剣に行動している人のことがわかるのですね。

^{せんばい}池田 ご両親はじめ諸君の先輩は、^{めいせい}名誉もいらない、^{あんいつ}名声もいらない、^{しんねん}安逸もいらない、ただ自分の信念をまっすぐに貫いて、「自分も幸福になり、人も幸福にする」という人生を生きてきた。人間として最高の人生です。この「人間として」が大事なのです。「人間として」立派な人格こそが「国際人」の要件なんです。

——「人間として」^{まず}貧しい生き方を^{つうよう}していて、どんなに英語ができて、世界には通用しないですね。むしろ、バカにされるかもしれません。

「ひとのために」「社会のために」

池田 もちろん語学は大切だが、語学はあくまで手段^{しゅだん}です。問題は、その語学で「何をするのか」なのです。

日本人は、ボランティア精神^{うす}が薄いと言われる。しかし、それではいけない。

第一に、国際的に信用されない。第二に、自分自身が小さく固^{かた}まってしまい、生き生きとしない。「人のために」「社会のために」。これは人間にとっての基本^{きほん}です。

今の日本の教育は、それを教^{おし}えていない。諸君のお父さん、お母さんは、それをやっているのです。本当に尊^{とうと}いことだ。

—— 国際人と言^みっても、「人間として」自分を磨く^{みが}ということが、基本なのです。

“自分なき、日本人

池田 イギリスで聞^きいた話だが、「爆弾^{ばくだん}が落^おちた時、イギリス人は “負傷者^{ふしやうしや}がいないか” と、そこに行く。日本人は、そこから逃^にげていく」と。また「日本人は、うわさで判断^{はんだん}する。外国の紳士^{しんし}は、必ず自分で見て確^{たし}かめる」と言^いった人もいる。

日本人は “自分がない” と言^いうか、自分の目で見、自分の頭で考え、自分の信念^{しんねん}で行動しない。いつも、他人がどうかを考え、格好^{かつこう}とか、相手との上下関係^{じやうげ}を気にして生^いきている。

SGI公認通訳^{ふにん} かつて日本に赴任^{がいこうかん}した、ある外交官のお話ですが、自分の肩書^{かたがき}を言^いうと日本人の態度^{たいど}が一変^{いつべん}する^るのが、とてもいやだったそうです。

「本当に心の通う交流がしたい」と思い、週末になると、わざと、ふつうの格好をして、釣りに行ったり、小料理屋に行ったりしました。もちろん、相手には絶対に自分の肩書を明かしません。

ある時、レストランで食事をして、一緒になった日本人といろいろ話をしました。食べ終わって、「ぜひ、名刺を」と言ってきたので、しかたなく渡したそうです。すると、その日本人は、土下座をするようにして謝ったということです。その外交官の方は、びっくりするとともに、「ああ、日本には本当の意味の『教育』がないな」と悲しくなったそうです。

—— 象徴的な話ですね。

六千人の命のビザ

池田 日本は「人間として」開かれた国にならなければいけない。

第二次世界大戦の時、多くのユダヤ人を助けた杉原千畝氏(一九〇〇年一八六年)の行動は有名です。ナチスによるホロコースト(大量虐殺)が進められていた一九四〇年。杉原氏は、リトアニアの日本領事館で領事代理をしていた。氏のもとへ、ポーランドから多くのユダヤ人が殺到した。それは日本を経由して第三国へ逃れる「通過ビザ」を入手するためです。

しかし、日本の外務省は、三度頼んでも「ビザを発行してはならない」という。杉原氏は悩んだ。そして決めた。「私を頼ってくる人々を見捨てるわけにはいかない。でなければ私は神に背く」(杉原幸子『六千人の命のビザ』大正出版)と。そして、外務省の訓令を無視して、氏はビザを発行する。それによって、約六千人の命が救われたのです。(この行為は戦後、「訓令違反」とされ、氏は辞職をさせられた。九一年、外務省より名誉回復)

夫人の杉原幸子さんは、当時を、こう振り返っておられる。

「どの民族であれ、人間の命にかわりはありません。主人は助けを求めている人がいて、自分が助けられる立場

にありながら手を差し伸べないのは、人間のなすべきことではないという信念をもっていました」。さらに「今、日本は豊かでいい時代を迎えています。でも、それに甘えないで、世界のことを考えてほしいですね。もし、若い人が遊んでばかりいれば、日本もやがて下り坂になってしまいます」（「聖教新聞」一九九一年十二月十五日付「サンデー・インタビュー」）とも述べられています。

欧米には劣等感、アジアには優越感

—— まったく、そのとおりだと思います。どうして、多くの日本人は、心を開けないのでしょうか。これには、教育の問題も大きいと思います。

また、明治以降、ずっと「欧米への劣等感」に悩まされてきて、その反動で「アジア人、アフリカ人には優越的な意識をもつ」という屈折した心になってしまった。その結果、どの国の人とも対等の心で付き合えなくなった。

池田 多くの観点があり、詳しくは論じないが、一つだけ、トルストイの言葉を引いておこう。彼はこう言っている。

「宗教をみとめない人々の宗教とは、有力な多数が行なっている一切のことに従うという宗教であり、つまり、より

簡単に言えば、現行権力への服従の宗教なのである」（「わが信仰はいずれにありや」中村融訳、『トルストイ全集』

15所収、河出書房新社）。この「宗教」を、広い意味での「哲学」と言ってもいい。

—— たしかに、杉原さんも、「今、助けなければ神に背くことになる」と思って、当時の日本の権力に服従しなかったのですね。

どんな強い力で圧迫されようと、「正しいことは、正しいんだ」と、言いきれぬ勇気ですね。その勇気は、自分の信念というか、哲学、宗教から生まれてきます。

哲学とは「正しいことは正しい」と貫く信念^{つらぬ}

哲学はむずかしい？

池田 哲学と言うとむずかしいが、「これだけは譲れない^{ゆず}」という信念^{おんし}のことです。私の恩師戸田先生の「哲学の定義^{ていぎ}」は有名^{ゆうめい}です。

『哲学』というものは、西洋の哲学でいうデカルトやカントなどのように、めんどうなものではない。私は大学を出ないからわからないというものもいるが、哲学するということは、考えることである。

いちばんやさしい哲学は、水戸^{でつがく}光圀^{み と みつくに}(=水戸黄門^{こうもん})の漫遊記^{まんゆうき}があるが、そのなかで、いなかで、おばあさんに水をくれ^{こめだわら}といって、米俵^{こし}に腰をかけた^{おこ}ら、おばあさんが、これ水戸様に出す米だ^{おこ}といって怒った。光圀は頭をさげてあやまった。

聞けばこっけいな話であるが、おばあさんには、自分の作った米^{りようしゆ}を領主様にさしあげること、このことが哲学である。『だれがなんといっても、これだけはどうしようもない』、これが哲学である」(『戸田城聖全集』4)と。

戸田先生も、軍部政府^{ぐんぶ せいふ}によって牢屋^{ろうや}に入れられても、「これだけは譲れない^{ゆず}」と言って平和^{しんねん}の信念^{つらぬ}を貫かれた。牧口先生も同じです。今、お二人^{いのち}の命^{いのち}をかけた行動は、世界中から尊敬^{そんけい}されています。牧口先生も、戸田先生も、日本から一歩も出られていない。しかし、九十年以上も前に、牧口先生は、自分は「一世界民」だと言われた。また、戸田先生は「地球民族主義^{しゆぎ}」を言われて、つねに全東洋、全世界の未来を見つめておられた。

要するに、日本人だから、外国人だからということではなくて、同じ人間として、ともに苦しみ、悲しみ、喜び^{よろこ}、連帯^{れんたい}していける人こそ、本当の「国際人」ではないだろうか。

—— 何^{ばくぜん}だか、今まで、漠然としていた「国際人^{み ちか}」というのが、急に身近な感じになってきました。今までは、英語がペラペラで、外向的で、スマートで……といったイメージでしたが。考えてみれば、語学がどんなにできても、それを使って他の国の人を苦しめていたのでは、しかたありませんね。

約束を守る人に信用と友情が

池田 国際人として大切なことは「約束したことは守る」ということです。「日本人は、その国で約束しても、日本に帰って、飛行機から降りると、もう約束を忘れている」と言われる。それでは信用が得られるはずがない。

—— 池田先生の海外からの絶大の「信用」も「友情」も、約束を一つ一つ、がっちりと守ってこられた積み重ねだと思います。

池田 友情です。海外の人は、日本人が思っているよりも、ずっと深く「友情」を大切にしている。「友情」が一つのバックボーンになっている。

友情を裏切らない人。友情を結んでいける人。それが国際人の要件です。

諸君のなかには、「自分は英語も苦手だし、国際人なんて関係ない」と思っている人もいるかもしれない。しかし現実、望もうが望ままいが、二十一世紀、諸君が生きる時代は急速に「世界一体化」になっていく。

エジプトの大統領とお会いした時、言われていた。「ポーランドの大統領が、いいことを言いました。一箱のマツチでも、一国だけではできなと。軸にする木、イオウ、箱、接着剤など、多くの国が協力しあって、一つのものが完成します」。

このあと、私は、ポーランドの大統領とも会見しました。

このように、すごい勢いで「物の国際交流」が現実になっている。インターネットをはじめ「情報の国際交流」も、すごいスピードです。

だからこそ、それらを平和の方向へ向けていくための「心の国際交流」が絶対に必要なのです。そのために、SGIは平和・文化・教育の運動を、全世界で展開しているのです。

—— いちばん世界に必要なことだから、世界の人が讃えるのですね。反対に言うと、創価学会の運動の実態

を自分で確かめもせず、^{たし}的^まはずれの批判ばかりしている日本の社会は、それだけ「国際化から遅れている」、^おとい
うことだと思います。

池田 そこで大事なものは、やっぱり「語学」なんです。世界的哲学をもった諸君だからこそ、大きく活躍^{かつやく}するため
には語学が大事なんです。

語学は受け身でなく「集中力^{ひ けつ}」が秘訣

語学——今はいくらでも学べる

池田 私は、世界五十カ国以上を訪問し、友情を結んできた。

「いちばん後悔^{こうかい}したことは何か」と聞かれれば、各国の著名人^{ちよめいじん}と対談^{たいだん}したさい、「語学ができれば、どんなにかよ
かっただろう」と思うことです。

じつは青年時代に、語学の必要性を感じて、英語を学ぼうとした。しかし、当時は戦争中。^{てきこくご}「敵国語」^{てきこくご}として使
うことさえできなかった。戦後も、私は肺病^{はいびよう}。戸田先生の事業は失敗^{しつぱい}。私は、あばら骨が浮き出るほど痩^やせた。食
事を十分にとれず、血^はを吐くこともあった。それでも、寝^ねる間も惜^おしんで、師^しのために戦った。

大学に通えなかった分、せめて私が教^{おし}えてあげたい——戸田先生は十年間、毎朝、万般^{ばんばん}の勉強を教えてください
ました。戸田先生は、数学をはじめ、多くの学問^{かくしん}の核心をつかんでおられた。その天才^{てんたい}的な先生でも、英語は得意
ではなかった。「ステーション(駅)」を「停車場」「停車場」と言われる明治の方^{かた}であった。

私は、自分で英語の個人教授も受けたが、その教師は金^{おし}を取ることだけ考えて、ろくに教^{おし}えてくれなかった。結
局^{た ぼう}、多忙^{たうま}だったため、通訳^{つうやく}に任^{まか}せるようになった。

その点、諸君は、その気になれば、いくらでも語学を身につけられる環境^{かんきよう}にある。あとは自分の努力次第^{し だい}です。

SGI公認通訳 よく高等部や中等部の会合で話す機会^{き かい}があります。

「英語は好きですか」と聞くと、好きな人はパラパラ……。嫌いな人は、と聞くと、皆が「ハーイ！」と。(笑い)

池田 あなたは創価大学出身でしたね。創大からアリゾナ大学に留学したんだね。

SGI公認通訳 はい。そうです。

池田 どうやって英語を学んだのか、後輩のために、少し「秘訣」を教えてあげてください。

SGI公認通訳 はい。でも、私も通訳としては、まだまだ、これからで、「勉強中」なんですが……。

池田 英語が好きになった、きっかけは？

SGI公認通訳 はい。きっかけは音楽でした。ビートルズのレコードを何回も聴いたり、ラジオでFEN(フェン。米軍極東放送網)の英語放送を聴いていました。言っていることは、ほとんどわかりませんでした(笑い)。そうすると、学校で習う発音とちょっと違うなと気づきました。歌詞カードを見ながら、一緒に歌ったりもしました。

学校の教科書も、とにかく覚えるくらいに読みました。音読は、効果があると思います。それとともに、学校で毎週、単語テストがあり、そのおかげで、ずいぶんボキャブラリー(語彙)が増えました。これは、積み重ねが大事です。

大学へ行ってからは、FENの短いニュースを聴いてディクテーション(聴いて書き取る)もしました。先輩から「百回聴いて、わからなかったらやめていい」と。また洋画もよく見に行きました。ただし、朝から行って、同じ映画を三回見るのです。三回目には、字幕なしで、だいたいわかる……気がしました(笑い)。今はビデオがあるから、いいですね。

上達する秘訣

—— そうは言っても、私たちが日常使わない外国語です。上達する秘訣は、あるのでしょうか。

SGI公認通訳 ある期間、集中して学ぶことだと思います。自分がパッと開けるまで、頑張って努力することです。

受け身の姿勢であつたり、漫然とやっても、身につきません。

たとえば、『星の王子さま』『桃太郎』など、自分が知っている内容の外国語本を「読み切る」と決めてはどうでしょうか。映画のビデオでもいいし、要は、自分の興味ある、身近なところからトライしていくことです。

—— 目安として、どれくらいの期間、取り組めばよいのでしょうか。

SGI公認通訳 人によって違いますが、必ず「わかり始める」瞬間があります。その瞬間まで、辛抱強く取り組んでください。赤ちゃんは、ある時になると、突然、言葉をしゃべりだします。これと同じ原理です。

いろいろな教材がありますが、目移りせずに、いったん決めたら、それをマスターするまで頑張ることです。

—— どうしても授業についていけないと思う人は、中学校の英語の教科書を丸暗記するのがいいとも言います。グーンと力がつくそうです。

池田 自分の「苦手意識」に負けてはいけないね。語学に、特別な才能は必要ない。現に、みんな、ちゃんと日本語をしゃべっている(笑い)。「よし、絶対、自分はできるんだ!」と、まず決めて、一步一步、挑戦することです。

留学について

—— 「海外に行けば、語学がマスターできる」と考え、海外留学を決意するメンバーも多くなっています。「高校生のうちに留学をすべきでしょうか」との質問をよく受けます。

池田 海外に行き、視野を広げることは有意義でしょう。決して留学に反対はしない。しかし、「何のために行くのか」という目的観がないと、流されてしまう。風潮に乗って、「何となく」では長続きしないし、中途半端になってしまう。決して安易に考えてはいけない。また、あせる必要もないと思う。

“学校英語”は意味がない？

—— 今の“学校英語”は意味がない、という声も多いのですが。

SGI公認通訳 私自身、留学前はそう思っていました^{あやま}が、それは大きな誤りでした。現地へ行っても、日本で

文法^{ぶんぽう}の基礎^{きそ}などをマスターしていなければ、きちんとした英語はできるようになりません。留学すれば、たしかに、

日常会話^{ていど}程度の語学力は身につきます。

しかし、それ以上のものにはなりにくい。その程度なら、日本でも十分^{しゅうとく}習得できるのです。

「以心伝心^{いしんでんしん}」は海外^{つうよう}で通用しない

—— では、これだけ言われても「語学だけは好きになれない」(笑い)……そういう友は、どうすればよいのでしょうか。

池田 むずかしい質問だね。海外で「以心伝心」は通用しない。「わかってくれるだろう」と思っ^てはいけない。はっきり言葉で伝えないといけない。

ただし、どうしても語学^{きら}が嫌いであれば、語学以外にも、人間^{どうし}同士のコミュニケーションの方法はあります。たとえば、音楽をはじめ芸術もそうだし、スポーツもそうでしょう。「数学」だって「世界語」です。何かの技術をもっていて、
尊敬^{そんけい}されるということもある。要は「世界に通用する自分」になるために何か武器^{ぶき}をもつことです。

私の夢は、諸君が、全世界で、思い^{かつやく}っきり活躍してくれることです。

しかし、物ごとには順序^{じゆんじよ}がある。小説も「一ページ」「一ページ」と、順序よく読んでいかなければストーリーがわからない。それと同じように、今は基礎^{きそ}をつくる時代です。

ゆえに今は「開かれた心」をつくれ、そして、「語学」に挑戦^{ちようせん}せよ、と訴^{うつた}えておきたいのです。